

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年6月20日（火）

2 確認箇所

多核種移送設備建屋、5，6号機東側電気品建屋、5，6号機護岸ヤード等

3 確認項目

多核種除去設備等処理水希釈放出設備試運転の実施状況

4 確認結果の概要

多核種除去設備により、汚染水から放射性物質（トリチウムを除く）を安全に関する規制基準を確実に下回るまで浄化されていることを確認した水（以下、「ALPS処理水」という。）は、トリチウム濃度が規制基準を厳格に遵守するだけでなく、政府の基本方針に基づき、1,500Bq/L未満を満足する濃度になるよう、海水で大幅に希釈され、海洋へ放出される計画となっている。

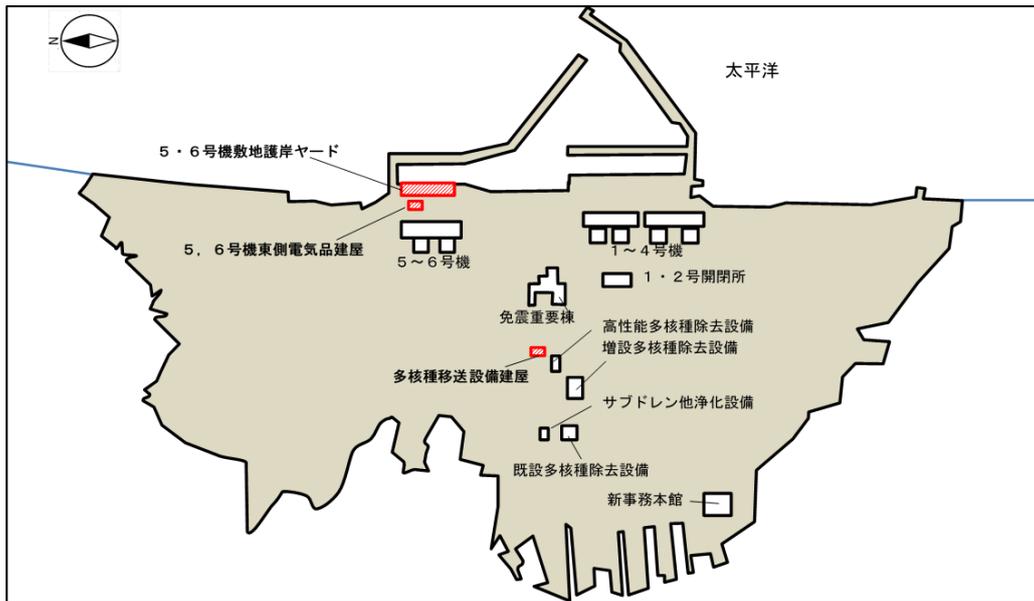
東京電力では、現在、ALPS処理水希釈放出設備の系統全体でのポンプの性能やインターロックの動作を確認することなどを目的とした試運転を行っており、本日（6月20日）は、ALPS処理水の代わりにろ過水を使用した移送、希釈等の試運転が行われたことから実施状況を確認した。

（図1）（前回確認日：6月16日（海水移送ポンプの性能確認等））

- ・トレーサーとしてろ過水にリン酸塩を添加した水を移送し、海水で希釈する一連の工程が行われた。
- ・ろ過水は、K4タンクエリアの西側に設置されているノッチタンクに貯留されており、ALPS処理水移送ポンプまでの配管が敷設されていた。

（写真1）

- ・移送にはALPS処理水移送ポンプ（A）が使用され、希釈には海水移送ポンプ（A）が使用されていた。（写真2）
- ・東京電力の担当者立会いの下、作業員が放水立坑（上流水槽）の上流側配管から希釈後の水をサンプリングしていた。（写真3）
- ・確認した範囲では、系統に水漏れ等の異常は確認されず、流量計等の指示値にも異常は見られなかった。（写真4）
- ・東京電力によると、希釈後の水のトレーサー濃度を測定し、設定した希釈率が得られていることを確認するとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
ろ過水タンクの設置状況①
(北西側から撮影)



(写真1-2)
ろ過水タンクの設置状況②
(北西側から撮影)

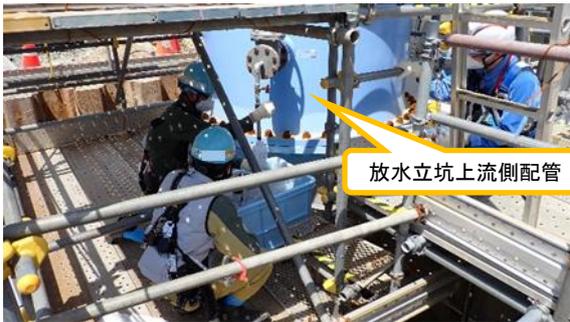
ALPS処理水移送ポンプ(A)



(写真2-1)
ALPS処理水移送ポンプ(A)の
状況(多核種移送設備建屋内)



(写真 2 - 2)
海水移送ポンプ (A) の状況 (5,
6 号機護岸ヤード)



(写真 3)
サンプリングの状況 (5, 6 号機護
岸ヤード)



(写真 4 - 1)
ALPS 処理水流量計の状況
(5, 6 号機東側電品室内)



(写真 4 - 2)
海水流量計の状況
(5, 6 号機護岸ヤード)

5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。